

検査での被曝を心配なさっている患者さんへ

福島原発などで被曝のニュースが多く報道され、医療被曝（CT や心臓カテーテルなどでの被曝）を心配なさっている患者さんも多いかと思えます。

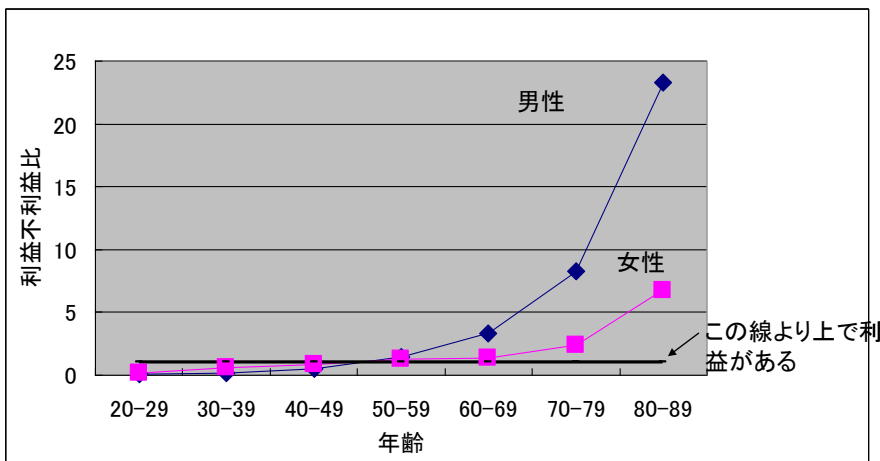
医療における被曝は患者さんの状態を把握するために必要な検査によるもので、その被曝は必要最小限に押さえられています。医療による被曝より、それによって得られる情報の方が遙かに有用であることの実例を示します。

(1) 健常人を対象とする健診において

イ) PET-CT 検査

下記の表のように、50 歳以上では、喫煙や家族歴の有無にかかわらず、癌発見の利益が被曝のリスクを上回ります。年齢とともに、その利益は拡大します。

図：PET-CT の被曝と癌発見の利益不利益比*



利益不利益比では 1 以上で利益が上回り、60 歳男性の場合、利益が 3 倍超となります。

ロ) 胸部 CT 検査

スモッキングインデックス（一日のタバコの本数×タバコを吸った年数）が 600 以上の方たちは年齢にかかわらず、CT でのスクリーニング検査のほうが、胸部単純写真に比して肺癌の死亡率を 20%、全死亡率でも 7%減少させたことが報告されています。

(2) 通常の診療において

健診では、ほとんどの人が健常者であるにもかかわらず、CT 等には前述のようなメリットがあります。ましてや疾病保有を前提とする一般診療において、診断への貢献によるメリットが被曝によるデメリットを上回るとは言うに及びません。当然のことですが、目前にある病気を正確に診断し、克服することがはるかに有益です。